

一過性の高血圧状態(夜間診療などで)

[_____]さま

【高血圧状態に対する治療の変遷】

- 様々な理由で血圧は高くなります。体調不良や、痛みなどはもちろん、疲れや寝不足、ストレスを感じている状態では、アドレナリンという興奮を及ぼすホルモンがでているために血圧は上がります(勿論、脳卒中など重篤な疾患で血圧が高くなることもあります)。
- 昔は血圧が高い状態の際に、緊急に降圧薬を処方(舌下錠が多かったです)して急速に血圧を下げる治療が広くおこなわれていました。
- ところが、急速に血圧を人為的に下げた方が、そのままにしておくよりも、脳卒中や心疾患を招き、重要な臓器の虚血のおそれがあることが1990年代に判明し、2002年には舌下投与の中止勧告が出されました。その後は降圧薬の緊急内服は徐々に行われなくなっています。
- 血圧が高い状態で安定しているよりも急上昇、急降下の方が危険であると現在は考えられています。

【治療】

- 最近の血圧の薬は内服してもゆっくりしか作用しないようになっていきます。今血圧が高いから、と内服をしても、作用するのは10-20時間後だったりします。
- 極端に血圧の高い状態は、確かに脳出血などを招き、緊急の降圧を行う必要があります。ただ、その場合の血圧は200~240mmHgとかなりの高値で、その場合は点滴剤などを用い厳密な監視下のもとで行うべきとされています(原則入院です)。
- 200以下の血圧の場合に降圧剤を用いて血圧を下げることは多くありません(脳出血や解離性大動脈瘤など厳格な降圧が必要な病気が判明している場合は別です)。
- 痛みによって血圧が上がっている場合は鎮痛剤を使うことで血圧がさがりますし、極端な興奮状態・不眠の場合は抗不安薬などを用いた方が血圧が下がるでしょう。

上記内容を説明しました。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 科
